「日本の子育て支援について　～私たちの未来のための子育てしやすい環境作り～」

鹿本高校1年　池田愛理　坂井あかね　社方美夢花　速見麻衣子

要旨

近年、赤ちゃんに関する問題が日本には多いと思う。子育てできずに遺棄してしまったり、未成年の妊娠で追い込まれる人もいる。そこで私たちは熊本にしかないという「こうのとりのゆりかご」に着目し調べ学習を行った。調べていくうちに、こうのとりの存在意義について考えるようになり、ゆりかごをなくしてはいけないがなるべく使用してほしくないという意見にまとめ、最終手段として使ってもらうために、日本の子育て制度を見直す必要があるという考えに至った。そこでクラスの生徒と保護者に子育てについてのアンケートをとり、私たちなりに考えた日本の子育て支援について提案したいと思う。

研究背景

日本では長い間、何らかの理由で子どもを育てられないために中絶したり、慈善団体や児童保護施設の前に子どもを置いていったりといった親の無責任な行動での子どもの死亡を防ぐためにこうのとりゆりかごが設置されており、こうのとりゆりかごを調べていくうちに、赤ちゃんと母親を他の方法で命を救うことはできないかと考えたため。

現状

～こうのとりのゆりかごについて～

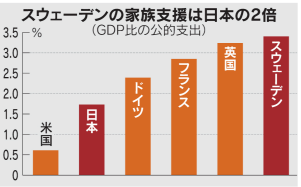
諸事情のために育てることのできない赤ちゃんを親が匿名で託すための施設、およびそのシステムの日本における通称で、日本では熊本県熊本市西区にある慈恵病院では「こうのとりのゆりかご」という名称を使用している。

～日本の子育て支援の現状と他国との比較～

	日本	フランス	イギリス	スウェーデン	ドイツ	米国
第1子出生時の母親の平均年齢 *1	30.7歳	30.6歳	30.6歳	31.1歳	31.1歳	23.1歳
長時間労働者の割合（男性、週49時間以上）*2	27.3%	14.0%	16.7%	8.7%	12.0%	23.6%
夫の1日の平均家事時間 *3	0.41	2.15	2.20	2.51	2.30	2.25
家族関係政府支出の対GDP比 *4	1.31%	2.93%	3.47%	3.53%	2.22%	0.64%

内閣府2020年資料を簡略化
*1) 2018年調査(米国のみ11～15年平均値) *2) 2018年調査 *3) 2010～18年調査 *4) 2015年調査

NHK福祉情報サイト



日本経済新聞人口と世界

研究方法

・こうのとりのゆりかごについての調べ学習

（インターネット、新聞記事）

・生徒へのアンケート（将来あったらいいなと思う制度）

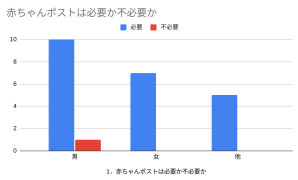
・保護者へのアンケート（子育てで大変だったこと）

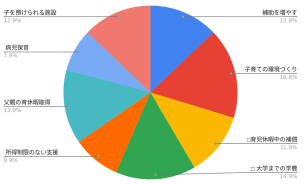
仮説

いろいろな支援をすることで、こうのとりのゆりかごを最終手段として利用することができるのではないか。

結果

①赤ちゃんポストは必要か　②将来あったらいいなと思う支援





引用文献・参考文献

https://news.yahoo.co.jp/articles/87ef5c41ae12363133a6f0d4d9d6f719a3f95df0?l7l2pagew2/　http://www.shigakukan.ac.jp/information/upload/report2010_02.pdf/

日本にいつしかない赤ちゃんポスト行政の支援で増やす必要があるのか　赤ちゃんポストを増やすべきか

https://ameblo.jp/kataoka-hidehiko/entry-11763522928.html/　https://www.hou-nattoku.com/eng/29-babypost.php　https://www.jichiro.gr.jp/jichiken_kako/report/reg_hokkaido32/2-1/2-1-yna_2110289/index.htm

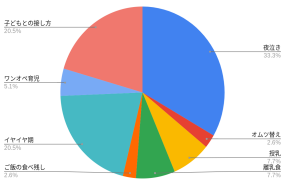
赤ちゃんポストをなくすためにできること　赤ちゃんポスト・問題点・対策・展望　こうのとりのゆりかごについて

https://www.nagaoweqbs.jp/approach/%E6%B5%A4%E7%B1%A1%E3%82%81%E7%9%84%E3%81%9D%E3%82%B9%E3%81%88%E3%81%A1%AE%E4%A0%98%E5%8C%5A8%E7%B1%AE%E6%B8%AF%E9%9D%9E%E7%B5%B5%EF%BD%9E%E9%A0%90%E7%A1%1E%E3%82%89%E3%82%8C%E7%A7%BB%E3%A0%90%E4%BE%9B.html

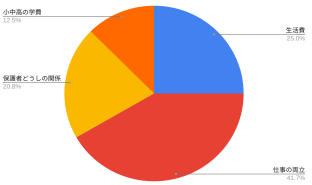
赤ちゃんポストの存在の是非

保護者に聞いた子育ての際大変だったこと

〈育児〉



〈経済〉



考察

こうのとりゆりかごに関するアンケートの結果から、赤ちゃんポストは、親、子関係なく必要があると思う人が多かったためなくしてはいけない。

生徒の育児支援に関するアンケートでは、環境づくり、育児休暇、学費がほしいという意見が多かったが実際に育児を経験していないためなんの支援が必要か具体的にはわからずとりあえずいいなと思うものを選ぶというのが多かったと感じた。

また、親御さんに聞いた支援に関してのアンケートでは、仕事との両立、大学までの育児費など経済面に支援が必要だと思っている人が多かった。育児面に関しては、イヤイヤ期、夜泣きなどの子どもとの接し方への支援の意見が多かった。支援するためには保育園、幼稚園など子育てがしやすい環境を作ることや、保育園などともっと距離を縮め、お母さんが気軽に誰かに頼ることができるような社会を作る必要があるとわかった。また、親が育児をしやすくなるために社会からの支援も大切なのではとも考える。

今後の展望

探究より、多くの人に直接的に届き、需要の高い支援が必要だということが分かった。支援の内容としては、特にお金と時間と環境が必要だと分かった。どの会社も育児休暇給付金を義務付け、自営業など会社に属さない方々を把握し給付金を配給すること、子育て環境を整え、母親をサポートするために保育士を増やす必要があるので、保育士の給料をあげ、信用できる保育士を育成することを提案したいと考える。

しかし、まだ具体的にどこでどんな支援が行われて、誰が何をどのくらい必要としているかは今回の研究だけでは把握できなかったので、今後はさらに日本の支援についてもっと理解を深め、自分たちが大人になったときに、少しでも子育てをしやすい環境づくりができるような支援を提案したい。

仮説でたてた、子育て支援を提案するということだけでは、こうのとりのゆりかごを最終手段として利用するのは難しいと思う。